

担当者	青山大介（学び・学生支援機構）
題目	安井息軒の漢文を読もう：『読書余適』の旅
学期	2025年度 第2クォーター（6/11-8/6）
授業形式	対面
科目の概要	
宮崎が生んだ「日本一之学者」安井息軒〔1799-1876〕が漢文で書いた著作を声に出して読んでみませんか。漢文があまり得意でない人のために、訓読文を用意しています。 今回みんなで読みたいのは、息軒が天保13年〔1842〕7月2日から8月23日まで、52日間にわたって東北地方を巡覧して著した旅日記『読書余適』です。本書は、いわば漢文の『奥の細道』、江戸時代の旅ブログのようなもので、息軒は有名な観光名所を訪ね歩いては率直な感想を述べ、旅先で遭遇したハプニングを語り、ウンチクを披露し、漢詩を詠んでいます。この授業では、息軒の漢文を読み、地図や写真でその旅路を追体験しつつ、江戸時代の旅行とはどのようなものであったのか、話し合ってみたいと思います。 分量が多いので、7月2日分から読んでいって、全8回で読めるところまで読みます。	
学習目標	
本講座では、全体をとおして次のような知識・スキルの習得を目指します。 ①郷土の偉人安井息軒について、ある程度深く説明できる。 ②江戸時代の人の暮らし（旅行）について、ある程度説明できる。 ③旧字体や歴史的仮名づかいで書かれた文章をスムーズに音読できる。 ④訓読文で書かれた文章の内容をある程度理解できる。	
授業計画	
第1回	毎回の授業では、センテンス単位で、 ・受講生による音読 ・受講生による解釈 ・講師による解説（地図・写真の確認） ・意見交換 という過程を繰り返すことで進めていく。 初回はガイダンス「安井息軒と『読書余適』について」及び 7月2日：江戸の自宅→護国寺前→王子→豊島津→竹塚→草加→春日部 7月3日：春日部→関宿→堺駅→谷貝村→諸川 7月4日：諸川→武井→結城→谷貝村→鬼怒川→上川
第2回	7月5日：上川→宇都宮 7月5日：宇都宮→野沢→徳次郎→大沢→今市→鉢石 7月7日：鉢石→馬返し坂→三沢→華厳の滝→中禅寺湖→勝道上人碑→三沢→荒沢→阿含の滝→鉢石
第3回	7月8日：鉢石→日光東照宮→外山→鉢石→今市 7月9日：今市→鞍崎→大桑村→鬼怒川→高德→高原 7月10日：高原→不動の滝→糸沢
第4回	7月11日：糸澤→田嶋→長野→串谷→大内 7月12日：大内→関→会津若松 7月13～16日：会津若松
第5回	7月17日：会津若松→藩兵操練場→十六橋→猪苗代湖 7月18日：猪苗代湖→磐梯山→大野→大沢村→檜原→綱木→関北 7月19日：関北→米沢

第6回	7月20日：米沢 7月21日：米沢→荒砥 7月22日：荒砥→関所→最上川→大沼
第7回	7月23日：大沼→左沢→長崎→山形 7月24日：山形→篠野→関所→川崎 7月25日：川崎→碁石→赤石→鍵取坂→広瀬川→仙台 7月26・27日：仙台
第8回	7月28日：仙台→蒙古碑→多賀城碑→塩釜→松島
主な対象者	社会人、学生。
テキスト	教室にて配布。
参考書・資料	○安井息軒『読書余適・睡余漫筆』（成章堂、1900年。国会図書館デジタルコレクション公開）　○高橋智「塩谷宕陰・木下犀譚批評安井息軒初稿「読書余適」：安井文庫研究之一」（『斯道文庫論集33』、1999年。慶応大学リポジトリ公開）
キーワード	安井息軒，読書余適，観光，ツーリズム，旅行記，江戸時代の暮らし
備考	本講座の内容は、NPO法人安井息軒顕彰会の令和6年度外部委託研究費「安井息軒『読書余適』の基礎的研究」の成果の一部です。また「余適の会」の読書会活動の成果を踏まえます。